

論文発表と討議は、6月1日から9日まで午前と午後と2会場にわたって25の分科会に分かれて行なわれ、デモグラフィに関するものも少なくなかった。本研究所からの参加者は、所長館 稔、調査部長上田正夫であつたが、上田部長は寄稿論文として、“Urbanization and Changes in the Economically Active Population in Japan”を Measurement of the the Labour Force (6月8日午前)の分科会において発表した。

分科会と併行して、統計のセミナーが、会議に参加できなかった人達を対象として、6月2, 4, 6, 7日に東京、九段会館において開かれた。

6月9日正午から開かれた総会と閉会式において、会長に M. Boldrini 氏(イタリア、ローマ大学統計学教授)が再選されたという報告があり、次回総会は1961年8月29日から9月9日までパリで通常総会として開催されることが決定された。

日本統計学会第28回総会の開催

日本統計学会第28回総会、研究報告会が昭和35年7月7日、8日東京、早稲田大学において開催された。研究報告は“国民経済計算をめぐる統計的問題”および“デシジョン・メイキング”の共通テーマのほか、人口統計、数理統計、経済(経営)統計、社会統計などの部分に分かれて36題の発表が行なわれた。人口に関するものとしては、

館 稔：戦後わが国における所得と人口の地域的分布(2)一広島県についての試算

上田正夫：移動人口の基本構造とそのパターンに関する研究
の報告があつた。

アジアおよび極東における人口センサス・データの 評価と利用に関する国連セミナー

標記のセミナー (United Nations Seminar on Evaluation and Utilization of Population Census Data in Asia and the Far East) が、昭和35年6月20日より7月7日までインド国ボンベイ市において開催された。セミナーはエカフエ諸国の17カ国の代表22名をはじめ、合計69名の参加者を得、日本からは本研究所資料科長小林和正技官および総理府統計局麓 富夫事務官(現在、同局労働力統計課長)が参加した。人口センサス・データの利用および評価に関して17項目の議題がとりあげられ、その各々について活発な討論が行なわれた。セミナーの概説については、本誌次号に掲載の予定である。